

古今俳諧明題集

雜之部

中村俊定文庫  
文庫 18  
409  
5





古今俳諧明題集部目錄

雜カ復ク春カ初葉  
冬カ復ク十一葉  
北四葉  
北二葉

紀キ行コ春カ從初葉至五葉  
冬カ復ク從十一葉至十六葉  
從十四葉至十六葉  
從十四葉至十六葉  
從十三葉至十六葉

留リ別ベ春カ五葉  
冬カ復ク十七葉  
從十四葉至十六葉  
從十四葉至十六葉

題タイ詠エイ春カ從六葉至七葉  
冬カ復ク從十九葉至二十葉  
從十八葉至十九葉  
從十五葉至十六葉

漫マン興キョウ春カ初葉  
冬カ復ク從十一葉至十二葉  
北四葉  
從十三葉至十六葉

送ソウ別ベツ春カ五葉  
冬カ復ク十七葉  
北七葉  
北四葉

贈ソウ答カ春カ六葉  
冬カ復ク從十七葉至十九葉  
從十七葉至十九葉  
北五葉

題タイ画ガク春カ從七葉至八葉  
冬カ復ク從二十葉至二十一葉  
從十九葉至二十葉  
北六葉





賀カ 春八葉  
復ハ 從廿二葉至廿三葉  
冬ト 卅七葉

追ツイ 善シ 春九葉  
冬ト 卅七葉

祝詞イリト 并ナ 唱句ナカト  
復ハ 廿三葉  
冬ト 卅八葉

上世片歌カミツヨノカタガタ 并ナ 今世旋頭歌片歌イマヨセトウカノカタガタ  
復ハ 卅八葉至四十六葉

悼イタミ 春從八葉至九葉  
復ハ 廿二葉  
冬ト 卅七葉

懷舊クイキウ 春從九葉至十葉  
復ハ 從廿二葉至廿三葉  
冬ト 卅七葉



古今俳諧明題集雜部

春 雜

春ツキ 此野や露の海海日を送る出歌  
假ツキ 山の多ふも去るば去るのりや  
朱キ 鷗は羽に夕日やリリ々々  
一紅  
一 紅  
東 廬 亭  
奴 奴

漫 興

本瓜ホカ 薊ケ 旅アガミ 一見一野ハ茶ぬ  
江 山 店  
燒ケ けりやさしども花ハ女さる由一  
北 枝  
棋碁 のあらしひをよめてやるは  
たやしのあしをよめてやるは

庚午の事

家を讀く

江

山 店

北 枝

水鳥にさ魚フナして後や松とく先

金井八ノ川

紀行キコウ

羈旅立春キリヨノリツヒ

多舎ハタゴヤハ狩ぬと暮やのりく

涼備

芳野山

山はくく一里かどへく壘にり  
喚ウケ起ヒきののちいえてのり海濱ウミノヘり  
手テをあて暴アマ斥ツすレちや茅チ野ノ山  
足タラシ鞋シにも暮コのくクやヤくク山

全全全  
全  
三橋

おぼろはあにまぐさ山ぬツを

瑪曉

狩カ又マくク花ハにニのノりリ神カミをヲ歌カ

芭蕉伊勢山田

奇キ生シもモくク様サマしシりリはハやヤはハ

曾北伊勢山田

くクくクくク入イはハさサやヤ神カミ様サマ

京 焠瓜

芳野出アくク蕪アのノまマるル山ヤマ路ミチくク水ミヅ

富鈴

世セのノ中ナカはハ不フ思シ減ヘぞゾ芳野山

野坡

暮コ社ヤシあアハハ様サマにニ曙アキラくク暮コあアひヒ暮コマ

芭蕉

書寫山シヨシヤサ

何をナニヲもモ何をナニヲもモつツてテ序シヨ侍シヤ雁ヤシ  
赤アカきキぬヌ所トコロせセやヤあアまマくク新ニジのノ暮コ

涼備 全

熊梅 あびら  
のうめ

あゝ梅の先や柳のたゞハ 涼備

石勒山 いさる  
ざやま

能啼く石のいりぬやはぢうぢ 司鱸

袖浦 そでが  
うら

浦の名は袖海出く 汶上

駿河 うら  
ぢる

あゝうらぢるさゝ 涼備  
不あぢる里く 梅の花 全

伊吹山 いぶき  
やま

あはれ伊吹の二日もさ 伊吹山 全

野上 のがみは  
のく

麻の糸はくく 麦はとち 全

いつきの海 いづきの  
うみ

いづき日も入れ日も見えく 全

二見浦 ふたらの

燕の尾や少りしけくニ見ほ 柳居

アツムセキ  
鷓鴣石

おろろ驚くるるやおが詠目 水樹

うらひをやふらひをうらひる一つ 西羊

描金松 まきまつ

り雁や描金松のほつ 希因

曹山 やまが

志之修に田をうへまゝく曹山 西羊

宇津山 やつま

宇津山宇津の山時比若下子々希因

鞠子山 ままりこ

夕ひをまよふる落さぬや鞠子山 五菱

猿込の まろ

猿込の猿くらけけ柳々希因 寛之

柳浦ヤウラ

跡亦やあまは海浪にまじりてあり  
涼備

華表碑ウサヒを  
こゆ歌

ゆくにまじりてあを思ふぬ木の芽は  
全

くさぐさ

山崎ヤマザキも何やゆり  
芭蕉

寂ツタヒレ芳く春の海は  
全

若ワカて子よりくさぐさ  
全

ゆきもく矢立へは海やふか  
凡山  
あはれくは坂もくさぐさ  
可登  
上つ市の一園に春の草の  
亦河を橋せおかくさたおしほに  
来々啼ハぬくゆきも山ぶら  
破了

送別ソウベツ

ゆく春をよしの人こそ  
芭蕉  
言かよみ何まもくゆくも回  
野坡  
梅さうくニヶ月むりり  
利牛  
唇のあおろくくと何  
支考  
夏への舟くさ運やぬぢ  
のむ  
麦林

梅の花

梅の花

夜

一音は昨甲斐のくはる歌  
梅の山又むしゅゆくを

旅に又地踏かへよを返さす

涼備

一系材俳仙窟に  
ゆくを返さす

棋もあしむ月日の進まを屋にハ

全

留別

ゆくまや多晴き魚の目ハ後

芭蕉

あハあしり  
あハあしり

麦並や秋ぐと冬はくはる

麥林

黄梨山に  
クハ時

あまや木魚に舟の影涼

西羊

贈答

音叩き土を  
竹ハにあるぞ

飛針ハ見ハしり花も色

涼備

見はり

水に又影でまてるははる

曲江

いすく瘦く人のくはる又つら  
そく古きおれんを思ひおれんを

あま合してかくも肥くを針

宗祇

髪こがらさ  
くハ

松も長く居土衣の友やハはかき

冠子



題詠

外詩梅

け梅の尾ささやまに三日は月  
領下をぬきむやう先のみか

涼備  
柳居

後紅

糸袖の我袖をひくぬかきか

大坂  
舊國

性長のうけ

おと後受はあはれ梅

泊  
徳

照顧脚下

りあそそも若子見侍人

麥林

有心無心

そそ日法人にあらどゆくほま

涼備

題畫

西施之圖

海棠の枕をさしめあらし

猿  
左

草さの解のいっひ

後たて解にのいっひおむかひのいっひリのいっひハ 涼俤

青面金剛シヤウメンコンガウ

解ぶのいっひハくののいっひ解るのいっひをのいっひふのいっひはのいっひらのいっひらのいっひ 全

和田酒ワタノリ花ハナ ウミダシ

茶チャはハ弦ゲンカカのノぬヌーーハハまマどドまマ水スイむム 兎土

反哺ハンボ

古コをヲ日ヒやヤ子コにニ口クハ笑エウくク夕タ慈ス鳥ト 江戸道春

角ツノ銭ゼン海ウミ喜キのノ麻マ

袖スリーブかカとト角ツノ解トーーうウりリ糸イトらラ糸イトらラ麻マ 金谷

岩イワ吐ハク吐ハク ウツハツ

月ツキをヲらラ海ウミのノハハをヲかカがガ カリシガ

老人ロウジンをヲあアいイでデあアいイしシをヲ

活カツ草ソウ酒シュやヤ鏡キョウ々々茶チャ碗ワンをヲすスくク布フはハ 三橋

羅ラ上ジョウ画ガク ロキニヤウノガハエニ

又海らちに素一ぬけや君筆 白水

賀

夏のさがありし  
よんをやく

後にうねるまへはと見し門の松 季吟

あけまを  
つとふく

やア梅や橋枝の末も芽ばい 加賀 万子

可由が書ぬらうら  
らうらとす

縁に抱く雛像も待べし楳のやど 凉儀

七十のおへなを

ハ絶頂もえくうりあは晴はく 全

可也  
ふそぢをなく

あふべし身はくしむ酒を 全

悼

あひの作は  
かまうりし情に

あま土返くて悲しうめまら花 見風

母か自れまうり  
し情に

忙れと後事まら海春社やは 鬼士

死にまらまら文をのまらまら 支考

輝くまらまらまらまら 冠子

孫せし時

よのよひの涙 染にぬるし 花とて 全

追善

圃ハダのよのよ 秋や 塚のよ 大阜

懐舊

碑イシタマの目に ちろくく 橋々を 希因

花のよを ぬるし

夢に思ひ 咲ハナに おしり くらを 夢林

父の塚

様サマの遠く 杜ツツミに けり 深魚

敷墓の塚

縁ササの下に 痛イタくハ 懐ナむも みて 涼儀

芭蕉庵の 跡を 訪

とく ぐさ 小鶴あひり 泣や 水

祝詞并唱句 つかへこと

喜梅天神 てあをいぬ

近江膳所 曲水

時に美もいづるも自在や梅の花  
榊水

藤 崎 ほう

帯にいて跡を垂より紫衣のむ  
涼 侘

伊 勢 いせ

何れ本の花もあはれにわひうを  
芭 蕉  
たうとさや扇にたす家様い  
希 因

唱句

文 殊

あはれも心をかくくくして  
加賀小松  
山 叩

同

浅 草 くあはれ

今もその網戸をぬぐくぬぐす  
未 了

同

池 と い け

八景の道末もあはれもいれくさ  
為 谷

復 雜

かゝる形に卯月の紫友を花  
糖に歌く笛にハハハハハハの藤  
東 奴  
千 林

漫 興

恋死をむき塚に啼く不とふれ  
江 州  
桂 奥 州

子や泣む子母も故の冷りび  
江 州  
嵐 蘭

痛 中  
痛く淡い人々を  
大 坂  
淡 々

人いふも  
第たつあしを

入る日やまゝに  
不 殘

何ゆゑぞ袷に  
涼 傘

暑り水あふ  
全

帰る毛虫  
山 崎  
宗 鑑

涼一を  
芭 蕉

紀 行

須磨

章魚壺ツボにまゝささや夏なつ月つき芭蕉

卯月八日

伊豆にあそびて

濯ウケ佛ぶつや湖うみを鹽シホの浮うき濟やまを汶上  
涼すずしや柵さく杖じょうに袖そでの帆ふしけけ紙し全

淡枕を

踏

夏なつに牛うしハはええるる水みづくくははまま 芥因

箱根路

た  
ち

湖うみのトとゆゆくく水みづやや夏なつここととちち 不殘

西にし行ゆき管くだ さい  
たい  
に

茶ちやににくく海うみ罪つみくくくくくくくく水みづ小こ 涼すず併ひ

出いで流なが山やま石いし窟くわ いつ  
は  
ら  
ん  
い  
ち  
や

蓋ふたもも水みづををくくくくくくくく水みづ小こ 一ひと籠かご

卯月うしづきの

た  
ら  
し  
に

木き着きハはままくく茶ちやもも紙し級くわいしし夏なつ茶ちや花はな 支し考こう

古今片歌明題集卷之五

回一

城の山あえ

日阿〜りハ夏ま〜り〜神

橋

涼備

五 條

扇の紐くけて糸あつさ

漁遠

姨捨山 をむとてやま

祖父祖母もけ時持〜田〜うを

涼備

川中流古戦場

た〜野に入み〜しても田〜るを

全

磯寄に〜 おせむ穿く押形戸たか〜布穀

全

高野山 カウヤサン

糸目にも柳〜見〜涼〜はよ 抜も自ら扇も涼〜不勅坂

麦林 鬼士

石山 やま

志つ〜岩にを〜入海標の

芭蕉

本音 ほんね

古今片歌明題集卷之五

〇



接道カチや人の体カチまぬ本下やカチ 深魚

醒井サメ

一トカチに脊中カチはかかく志カチさカチ 芙白

閑清水セシ

湖ウミ志カチ目をカチゆるカチさカチつカチ 鳥醉

大井川オホ

是カチてカチくカチ大井川カチるカチ水カチさカチつカチさカチ雨カチ 一鼠

疎傍柳ヒヤ

田カチ一カチ権カチ植カチくカチまカチさカチはカチやカチなカチさカチ々カチかカチ 芭蕉

鐘カチ

波カチにカチ鈴カチ新カチ葉カチのカチ裡カチやカチ鐘カチかカチさカチ起カチ 松巴角

家上川カチ

異カチ々カチさカチ日カチをカチ海カチにカチりカチ水カチさカチりカチ家上川カチ 芭蕉

五月雨カチを集カチめカチるカチ子カチ一カチ家上川カチ 全

不破園カチ

首にまうりハ見えく不破名園 楚調

野宮のや

白<sup>ウ</sup>荊<sup>ハ</sup>花<sup>ナ</sup>も色く悪本のりりお小 麥林

交<sup>マ</sup>草<sup>ク</sup>に瘦くくろ本れき 希因

やはまきのまもさびし 摺半 鬼士

木生時 ちくぶ

涼しや海にうまゆけし 素輪

教<sup>ロツ</sup>け<sup>キウ</sup>ス<sup>ロキ</sup>

まろひくろにぬくくろく 一鼠

子<sup>コ</sup>賀<sup>カ</sup>浦<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>の

帆<sup>フナ</sup>に<sup>ニ</sup>水<sup>ミヅ</sup>を<sup>シ</sup>敷<sup>シ</sup>へ<sup>テ</sup>つ<sup>ツ</sup>せ<sup>タ</sup> 全

宇<sup>ウ</sup>津<sup>ツ</sup>山<sup>ヤマ</sup> やつ<sup>ヤ</sup>つ<sup>ツ</sup>の

葉<sup>ハ</sup>が<sup>ガ</sup>イ<sup>イ</sup>モ<sup>モ</sup>も<sup>モ</sup>蔚<sup>シ</sup>り<sup>リ</sup> 許<sup>コ</sup>六<sup>ロク</sup>

か<sup>カ</sup>も<sup>モ</sup>い<sup>イ</sup>も<sup>モ</sup>何<sup>ナニ</sup>り<sup>リ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>山<sup>ヤマ</sup>路<sup>ヂ</sup>か<sup>カ</sup>む<sup>ム</sup>こ<sup>コ</sup>中<sup>ナカ</sup> 乙<sup>ニ</sup>孫<sup>ソ</sup>

在<sup>ア</sup>系<sup>ケイ</sup>を<sup>ヲ</sup>

ふい

古<sup>コ</sup>井<sup>イ</sup>戸<sup>ド</sup>を<sup>ヲ</sup>開<sup>ヒ</sup>き<sup>キ</sup>に<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>海<sup>ウミ</sup>あ<sup>ア</sup>つ<sup>ツ</sup>さ<sup>サ</sup>小<sup>コ</sup>

は<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>田<sup>デン</sup>

儀<sup>ギ</sup>城<sup>シロ</sup>

くはく

涼しきやほしき不二に後むさ

伊勢射和  
三十風

ふえほをどたつとも志れは言は家

西羊

小棘繁魚さけ折涼しや等下か家

芭蕉

息つぎに柳のえゆ侍夏野うか

蒼狐

飛脚よぐハ遠し一本法に獲後葉

一毛是利  
素因

象象の杖にまぐ侍や不しき

日暮老  
文兆

かゝるは体の侍雁おちほうむ

王貞

短衣や東の早ハるにあハび

王貞

送別

麦の穂や出ぬけくも粒麦 春中

野坡

浦河やむらが侍懐のまを以涼

依水

祖来うし結にゆく時  
序侍日をちぎて

沾徳

死侍よをまうし侍日や不しき

沾徳

涼侍侍歩に  
ゆきを

希因

合款をゆく時野に飛ぶや結うし

希因

僧に  
まうし時

希因

そなた時のちやまをまよ 罌粟は花

尾城  
越人

柳花系にゆく時  
路とちまうし

越人

そなた時ハ又ゆくまをまよ

麥浪

古今詩集卷之五

留別

飛かへ侍陸放のそも娘ちうー 涼備

常柳舎を出侍時

涼さを出くゆく水や柳かぞ 全

贈答

舎飛美りあふ侍

短衣の短は中 十はく 支考

柳飛ハ奈し 秀ハ水に久

見久侍や並しくの練若 希因

り遠くもやそあつ 全

あ侍人をそ失しに 侍の心をあ

るむしあふ侍し 大賀

牛麻多にやま

報子苑のやどりにハ侍 涼備

おろし侍時

空海を先別をくハ侍ま 全

あいのやま系ハ 杜鶴 三千風

古今詩集卷之五

古今新撰 謡歌明集 卷之五

倭者 涼におあこぼしは

おくくきくききききき

麦の葉のきつらりてやまはるる

涼備

十八橋

けりし目に見ゆあきの皆涼

芭蕉

杜若を

そめく

やどろきよくには百合の鬼もあ

希因

麦浪を

そまきり 溝の蚊帳ぞまはるる

涼備

あはらけはうくさく罪のあれ  
母はうけべき杖もむきを

懐うちの手まきくありんか

全

吸おんだのおはゆくと

うめく

松ハあゝあゝの伊をあゝとと

素園

古山亭

涼いさやぐにさあはらふもか

麥林

普庵と行く侍に昇壇の梅丸  
西くまよとせりたるあはれ

道ハおのぶとふれは梅丸  
とひみし夏にうまはれ

釋のあぬもひもつけく 茶はく先

涼備

あをさそりひこころに  
まにまに侍人

ニタのあぬ守家たのりまの庭

全

加の大系を

経あや子にゆもくハ 眩ま

南蘆

古今詩歌明題集卷之五

短衣やよほど文はく明くも

西羊

みどりあやあつけく疾も物

藤波

題詠

付 意

まのよみやつらさをそよどハ故もるり

春魚

大道廢有仁義

一人まの病の首をい涼こり

涼鬼

皆是吾子

眼<sup>ナテ</sup>麦<sup>シコ</sup>や照<sup>シ</sup>海も思<sup>シ</sup>歌も茶<sup>シ</sup>はぬ

希因

漁父辭

香<sup>キ</sup>ひより晴<sup>ホ</sup>はハ居<sup>コ</sup>ぬ不<sup>ト</sup>海<sup>ト</sup>小

素輪

鸞鳳伏窠鳴<sup>ラン</sup>梟<sup>ホウ</sup>翺<sup>フ</sup>翺<sup>シ</sup>

柳<sup>ラン</sup>梅<sup>ホウ</sup>やま<sup>フ</sup>梅<sup>シ</sup>を付<sup>カ</sup>くま<sup>ケ</sup>に茶<sup>ク</sup>了

玉負

外面似<sup>ガイ</sup>菩薩<sup>シ</sup>内心<sup>ホ</sup>如<sup>フ</sup>夜叉<sup>シ</sup>

うつくし<sup>ガイ</sup>人<sup>シ</sup>と<sup>ホ</sup>は<sup>フ</sup>命<sup>シ</sup>い<sup>カ</sup>む<sup>ケ</sup>り<sup>ク</sup>

龙琴

古今詩歌明題集卷之五

古今事類考卷之五

教戒之圖

あゝこの侍も見えや百舎はを 西洋

題 畫

扇の不在 あふは

涼一さや富土に位の々此障つとを 涼備

達摩

百へむいりびとちのい カニコトリ 穀 麥林

布袋

あてしこに、紙や機せ々々 涼 全

大黒

ありあげと楯 あま 涼備

機 毬

けそへ御座も借さばはつとや 全

茶 釜

仕人 江 祇負

古今事類考

は節少くさた侍杜鶴の画に  
うらひもれ息ハスメ女メ々々啼ナぬふとそ

伊勢守武

賀カ

抜頭が病より

たて歯をかく

とくすめあうててをうかこつろ

涼併

病ほを

百州のあともをうりさらふ雨

双飛

またまりり

報ヒルガホ子メも孫ウラカたもウいイそソぎギ起キ

許六

ち〜め〜ト〜

野茅すけい

まじぬより輪ハ像イ〜くえてク懐マ

路通

悼イタ

児コをウ〜

〜人〜

世の夢に似ニたりやま〜百合の屯

支考  
麥林

おもくけはカ帳ヤ帳ヤにも透スるルは夕ユ涼リみ

身ミハせセ先マく帳カにニ結ムさサひヒ麻マはハ〜ら

柱女  
文車  
か不侍

夏ナツ瘦ヒと地チにニ暮クへヘ侍シなナ〜

懐クハイ 舊キウ

古今片歌明題集卷之五



去侍とのハ疎——々々も夏こうら

麥林

田菴を

たつこ

凍——さや此庵をまへ位もて——

曾良

麦林の碑

一持ハ何處へ居——くまこうら

柳居

高館 どたち

夏草や兵士ツハモリとやう夏ツのあと 芭蕉

字海に

御蔭馬の正も 南都 長江

柳浦 やあざ

收帳つぬねを悲——波はら

涼城

曾あ見弟の極

弁圍ベキガリのそをこもる水ミヅを夏ツ栞クサ 全

祝詞のり

いよぶらや 考と流して 神カミ魚イサ 麥林

鶴岡つるが

涼スズシ一ヒトさや 旗ハタのをぐしもまは下 涼併

秋 雜

路のミチ中ナカ家イヘ此ココとト多タををもるもれれとと  
 ととゆゆくくとと下シモ本ホ倚ヨリややののそそとと  
 帳カ帳ヤたたむむああやや銀ギン屏ビラのの好コトたたとと此ココ  
 実ミ路ミチをを松マツのの尾ビととももかかままいい路ミチ  
 路ミチののそそとと不フああををいいろろくくににああややりりとと  
又月秘日いすぐみあつきた  
せらなりりるを  
 纏マけけとと夏ナツハハ居イりりととりりととのの何ナニとと  
 又又月ツキやや六ム日ニチももつつののああににハハ水ミヅをを  
 芭蕉 白枝 江江ヶヶ尺尺 禪禪盤盤師師支支考考 凡凡兆兆 其其角角

漫興マンキョウ

糸唐ハ蘇葉隣に交はむくくぬ

得鐵牛

入菴

備偶カダスミハあをいあやまきくも

得牛

地務チツういあやまきくも

穂ホ屋オリくあほくはやくや穂ホ輝キリス

涼備

お陰もはめをきあやまきくも

全

紀行キカウ

志波浦

峯ミネ下シタくの乳チにやかくさびるは月

涼備

羅漢寺ラクワンジ

ぬりぬり海もりりりさの海 全

野宮ノミヤのや

とけ入侍や奴も海のもく小柴垣 雲即

る麻マさサてらテラま

畜スソハ皆糸の文ヤるルるル畜スソのノもモ冠子

鏡崎カキザキ

いむらまや新ニ浪ナもくけを波ナミのノとト一ヒト氣

アノムセキ  
鶺鴒石

けんの中ぞゆく〜き路のうら

麥林

三井古き見路〜  
湖上の月を

るせ序は月の景色に表はは

季吟

文級はから

をむ枝中〜葉の縁ハ〜せり〜

純法三田  
素琴

そしとこに文級ハ〜葉まをる也

園女

ハレ  
霽〜ゆく霧の青々あまぢ志は

伊豫松山  
陰六

大磯

まねるは袂〜や〜後とる月

青藍

くさ〜

若海〜ハ〜て〜ら〜ぬ柳〜を

涼楓

きさ〜を〜の〜情〜を〜か〜

上総長南  
樵雨

送別

うらいでんじ

空<sup>カド</sup>後<sup>カケ</sup>此<sup>カケ</sup>秋<sup>カケ</sup>ゆく磯<sup>カケ</sup>や海<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>水<sup>カケ</sup>  
あ<sup>カケ</sup>海<sup>カケ</sup>や依<sup>カケ</sup>後<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>横<sup>カケ</sup>ふ<sup>カケ</sup>下<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>川<sup>カケ</sup>  
曙<sup>カケ</sup>ゆく<sup>カケ</sup>中<sup>カケ</sup>廿<sup>カケ</sup>七<sup>カケ</sup>夜<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>二<sup>カケ</sup>日<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>月<sup>カケ</sup>  
海<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>中<sup>カケ</sup>二<sup>カケ</sup>日<sup>カケ</sup>夜<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>家<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>す<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>  
海<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>日<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>二<sup>カケ</sup>日<sup>カケ</sup>夜<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>中<sup>カケ</sup>枝<sup>カケ</sup>枝<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>  
馬<sup>カケ</sup>驚<sup>カケ</sup>く<sup>カケ</sup>客<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>り<sup>カケ</sup>み<sup>カケ</sup>ち<sup>カケ</sup>と<sup>カケ</sup>通<sup>カケ</sup>る<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>  
海<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>と<sup>カケ</sup>立<sup>カケ</sup>向<sup>カケ</sup>か<sup>カケ</sup>さ<sup>カケ</sup>り<sup>カケ</sup>り<sup>カケ</sup>不<sup>カケ</sup>か<sup>カケ</sup>る<sup>カケ</sup>月<sup>カケ</sup>  
舟<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>去<sup>カケ</sup>む<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>旅<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>な<sup>カケ</sup>ら<sup>カケ</sup>ぬ<sup>カケ</sup>山<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>た<sup>カケ</sup>ち<sup>カケ</sup>り<sup>カケ</sup>  
草<sup>カケ</sup>薔<sup>カケ</sup>麦<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>花<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>こ<sup>カケ</sup>し<sup>カケ</sup>き<sup>カケ</sup>黎<sup>カケ</sup>明<sup>カケ</sup>る<sup>カケ</sup>を<sup>カケ</sup>

九月九日

うらやちにあま

涼<sup>カケ</sup> 芭<sup>カケ</sup>蕉<sup>カケ</sup>  
全<sup>カケ</sup> 支<sup>カケ</sup>考<sup>カケ</sup>  
雲<sup>カケ</sup> 裡<sup>カケ</sup>  
希<sup>カケ</sup> 因<sup>カケ</sup>  
五<sup>カケ</sup> 竹<sup>カケ</sup>  
涼<sup>カケ</sup> 備<sup>カケ</sup>  
湖<sup>カケ</sup> 關<sup>カケ</sup>

こ<sup>カケ</sup>う<sup>カケ</sup>水<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>又<sup>カケ</sup>来<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>る<sup>カケ</sup>も<sup>カケ</sup>あ<sup>カケ</sup>ら<sup>カケ</sup>ず<sup>カケ</sup>

青<sup>カケ</sup> 藍<sup>カケ</sup>

送別

秋<sup>カケ</sup>風<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>辞<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>日<sup>カケ</sup>暮<sup>カケ</sup>る<sup>カケ</sup>

麥<sup>カケ</sup> 林<sup>カケ</sup>

行<sup>カケ</sup>客<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>入<sup>カケ</sup>り<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>ら<sup>カケ</sup>ぬ<sup>カケ</sup>

茶<sup>カケ</sup>崎<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>海<sup>カケ</sup>を<sup>カケ</sup>た<sup>カケ</sup>む<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>旅<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>色<sup>カケ</sup>

涼<sup>カケ</sup> 備<sup>カケ</sup>

留別

青<sup>カケ</sup>す<sup>カケ</sup>が<sup>カケ</sup>ハ<sup>カケ</sup>旅<sup>カケ</sup>す<sup>カケ</sup>一<sup>カケ</sup>が<sup>カケ</sup>旅<sup>カケ</sup>あ<sup>カケ</sup>ら<sup>カケ</sup>ず<sup>カケ</sup>  
舟<sup>カケ</sup>の<sup>カケ</sup>路<sup>カケ</sup>に<sup>カケ</sup>登<sup>カケ</sup>る<sup>カケ</sup>く<sup>カケ</sup>あ<sup>カケ</sup>ら<sup>カケ</sup>ず<sup>カケ</sup>  
月<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>銀<sup>カケ</sup>涼<sup>カケ</sup>兔<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>ほ<sup>カケ</sup>く<sup>カケ</sup>日<sup>カケ</sup>は<sup>カケ</sup>水<sup>カケ</sup>ゆ<sup>カケ</sup>く

榊<sup>カケ</sup> 居<sup>カケ</sup>  
麥<sup>カケ</sup> 林<sup>カケ</sup>  
涼<sup>カケ</sup> 兔<sup>カケ</sup>

小枝送るをすやふに

芭蕉

物もよゝく庭ひさしく日くれば

芭蕉

いろくはそごゝく庭くや種ふく庭

涼休

社中の

くくく

贈答

庭くおハ庭をくろぞ種く庭

涼休

紫葺にすゝめ庭庭中

支考

梅多寄

俳仙ヤム

おぼろみ女もろくくくみらるる

涼休

まき盛ハ合此表に

せしめ人くく

蒲葺にも乳少くちれくくは月

全

涼休の結はやまへ

くやぬア

おち向くと蔓を動かしてくく庭々を

希因

やまもれくこの

石にあひく

このぬのりみらに戀も女くハ

秋色

江

女戸

涙もよむるにもあゝも菊はあど

涼休

涼休

くひく

お秀や二度にのゆくはたいか

上毛西牧  
蘆光

結よ白隠禪師

縮寄

不ぞ見えぬは何かのぞ秀も海

青藍

題詠

三界唯一心

蒲<sup>ヒヤクナリ</sup>草<sup>クサ</sup>や<sup>ヤ</sup> 蔓<sup>マン</sup>一<sup>イツ</sup> 心<sup>シン</sup>よ<sup>ヨ</sup> 了<sup>リョウ</sup> 素<sup>ソ</sup>園<sup>エン</sup>

三足猿

木<sup>キ</sup>と<sup>ト</sup> 月<sup>ツキ</sup>は<sup>ハ</sup> 代<sup>ダイ</sup>作<sup>サク</sup>や<sup>ヤ</sup> 中<sup>チュウ</sup>は<sup>ハ</sup> 猿<sup>猿</sup> 凉<sup>リョウ</sup> 俯<sup>フ</sup>

如是我聞

熱<sup>イナ</sup>閃<sup>ガン</sup>や<sup>ヤ</sup> 二<sup>ニ</sup>度<sup>タク</sup>め<sup>メ</sup>し<sup>シ</sup> 白<sup>ハク</sup> 錯<sup>サク</sup>

櫻<sup>ヒガハチ</sup>梅<sup>ヒ</sup>は<sup>ハ</sup> 皆<sup>カ</sup>是<sup>イ</sup>吾<sup>ガ</sup>子<sup>コ</sup> 沾<sup>シ</sup> 德<sup>トク</sup>

三笠山石墨

若<sup>ニホ</sup>の<sup>ノ</sup> 影<sup>カゲ</sup>う<sup>ウ</sup>つ<sup>ツ</sup> 凉<sup>リョウ</sup> 俯<sup>フ</sup>

貪着天上月失却手中珠

仍<sup>ナ</sup>海<sup>カイ</sup>は<sup>ハ</sup> つ<sup>ツ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup> く<sup>ク</sup>人<sup>ニン</sup>や<sup>ヤ</sup> 上<sup>ウ</sup>毛<sup>モウ</sup> 桐<sup>トウ</sup> 生<sup>セイ</sup> 宇<sup>ウ</sup> 冲<sup>チュウ</sup>

機關木人

夏のふん人にまをすはかしくを

下馬塚  
柴花

題畫

散音

竟ハハふ麻の骨や沼まほ

麥林

兔

耳こつて流もかまひぞおき

兔士

狂画連摩

登江舟噴のありや沼のく水

兔山

情故の草を甲へ海國

蓬もろんほハおもひぞうさば

西羊

羣鴉明月之圖

床にまゝぐのわもしく入は月

代徳上田  
麥二

加貝

家の縁あがら  
りふんをやぐ

まけく狩牡丹に富り海まらる

琳李

石の泊  
たまりるふん



時もく〜紀の馬に枝を〜  
酒堂

悼 いこ

事サカホ多花中ハもさあハ月け飛  
目茶法鬱ウツ令コシの花もさ〜  
此時をささ先〜  
季吟

母カ目あつ〜  
ふせ〜  
〜せ〜

目もあは志ち〜時〜  
有英

情帰もあ〜あ〜  
涼唄

九月八日 芝山の事

あま〜ぬ世に〜  
全

九月十三日 双龍

人の親心粟にむさ〜  
全

火にまはすもた〜  
麦林

登蓮スギが芒キキ今〜  
希因

懐クイ 舊キウ

一笑が跡を〜

古今片歌明題集

極も勤け秀賢ナカ一急ハ海ナカなるナカ芭蕉

大和のふ代女ハ男又まゝるむ好ましく  
跡せぬりあどもはおふくもるむ好ましく

大文カキ字ジの火もあつてハ草ナカはあし 涼俣

父いませし時海を

このこ終ひりしを

結州ミノムシ重シよるハ新海ナカに父ナカ急ナカ 麥汀

柳浦ヤウ浦ウラ

月ツキもむや底ソコにも海ナカきみやこそ 涼俣

實盛之曹

むざんやなかぬと比ヒトのきましくも 芭蕉

信玄シノケン之古城ノコウジ

々見ミを帷イ幕バクのころもさぶさ 涼俣

祝詞イハヒコトのつ

菅神

一雨イツウや目メにニるルるルくクむム神カミもモくクらラ 希因

松マツもあや海ウミもあ枝エも 賽ウツメ珊モド板イタ 梅路

太宰府タサキ

脚タラシの波ナミにニあアくク砂スナもやヤそソりリも 涼俣

冬 雜

人の歌徒き<sup>タ</sup>南<sup>ミ</sup>を<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup> 渚<sup>サ</sup> 雨<sup>アメ</sup> 石<sup>イシ</sup>

漫 興<sup>キヤウ</sup>

不<sup>フ</sup>條<sup>ジョウ</sup>る<sup>ル</sup>に<sup>ニ</sup> 店<sup>テン</sup>を<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>け<sup>ケ</sup>

飲料<sup>リョウリョウ</sup>に<sup>ニ</sup>加<sup>カ</sup>茂<sup>モ</sup>川<sup>カハ</sup>お<sup>オ</sup>ち<sup>チ</sup>ど<sup>ド</sup>マ<sup>マ</sup>ウ<sup>ウ</sup>か<sup>カ</sup> 京<sup>キョウ</sup> 浮<sup>ウ</sup>風<sup>フウ</sup>

おのひうけき

眼にあへ侍に

ま<sup>マ</sup>袖<sup>スリーブ</sup>に<sup>ニ</sup>侍<sup>シ</sup>何<sup>ナニ</sup>と<sup>ト</sup>る<sup>ル</sup>く<sup>ク</sup> 一<sup>イチ</sup>く<sup>ク</sup> 徒<sup>タ</sup>る<sup>ル</sup>を<sup>ヲ</sup>

維<sup>イ</sup>然<sup>ゼン</sup> 大<sup>ダイ</sup>和<sup>ワ</sup>依<sup>イ</sup>侍<sup>シ</sup>人<sup>ニン</sup>

紀 行<sup>キカウ</sup>

文字 関<sup>カン</sup> 世<sup>セ</sup> じき

漢<sup>カン</sup>の<sup>ノ</sup>多<sup>タ</sup>は<sup>ハ</sup>人<sup>ニン</sup>ま<sup>マ</sup>さ<sup>サ</sup>り<sup>リ</sup>や<sup>ヤ</sup>ら<sup>ラ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>じ<sup>ジ</sup>

和<sup>ワ</sup>子<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>病<sup>ビョウ</sup> 卯<sup>ウ</sup> 七<sup>シチ</sup>

緋<sup>ヒ</sup>月<sup>ツキ</sup>ハ<sup>ハ</sup>日<sup>ニチ</sup> 山<sup>ヤマ</sup>越<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>

緋<sup>ヒ</sup>ハ<sup>ハ</sup>や<sup>ヤ</sup>山<sup>ヤマ</sup>越<sup>ク</sup>吹<sup>フ</sup>海<sup>ウミ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup> 油<sup>アブ</sup> 毎<sup>マ</sup> 凉<sup>スズシ</sup> 城<sup>シロ</sup>

越の候てい

うきもや夏も後ハ親 去〜江 汶上

映 抜山 てやま

杖〜て映のを蟹や 杖をむを 琴詩

あ 宅 關 あたりのせき

言は義 之の脊中をうちたけを 京 映山

若松の

ふ 越えして

目も日もこゝろも〜や 表は時々ぬ 冠子

隅 田 川 すみど

船 汎の是く〜をき〜き〜き して

竹 生 時 ちくぬ

水 多 け け け け け 竹 生 時 麥 林

足 利 学 校 アスカノガク

毎 事 け け け け け け け け け け 本 橋 几

く さ く

旅人と香名唱まじり神一ふれ  
芭蕉  
枯くまびり理されやどに焚く火さく  
理然

送別

あまの二人の痕や言はれ  
桑人

強通に

さう節時

見やほまじり人さき一石  
智月

翁子古々に

序書を

うやうや一序書や尾張の女ちど  
凉依

留別

あけくぐさき一とつふく日かき  
岸虎  
尾張路ハ後にひく海草  
森林

贈答

藤之藤作の

室一

伐く海海佛もおかき  
原保

さあの人

あまのぬるや牡丹に露あふ  
希内

何し

葉は花や汲でもあま火たき  
全

あま信を

志り

古今和歌集題集卷之五

葉の沸くぬきやるや並に魚ニ屋トあり  
全

於~~~~~  
西美

題タイ詠エイ

修羅道シユラダウ

枯葉や起す我より~~~~~  
水ぬけりひく草ハきるきり  
終く  
麥林

沉浮自在チニフツジザイ

水多や暴風の浪に深あがり  
修羅道の  
變跡

言總のたもくは

おろを目をばけくぞ深~~~~~  
下段候  
馬影

白

初きや鳥の暑は飛ぶ~~~~~  
子永

題タイ畫ガハ

出山像シュツサンゾウ

埋火や曉るんを~~~~~  
麥林

達摩ダマ

古今和歌集題集卷之五

世六

古今片歌明題集卷之五

枯葉に履や始して地をカキ

歩路ハ皆ニ切直の枯野ヲ那 一音

六歌仙

酒々二人あま侍や飲何ハ歩 涼備

東坡

糸のいとねくもねー並比常 其角

莊子

襟と袷は美ハ是理ヲ細計 涼備

賀

あゝとに吹雪巻の

まじりに

喜此かい龜原の通戸まをーら 入楚

悼

かきくを並にかくま中枯芒花 其角

十月を羨うとばくまか一もを 嵐雪

麻も素をのりさびー地野山ハ 支考

カクや漆をかえろをこりま 野坡

舞の歌で世つがの思ろーるい

古今片歌明題集卷之五

味<sup>ア</sup>をい<sup>イ</sup>つ<sup>ツ</sup>も<sup>モ</sup>先<sup>サキ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>れ 守武

そ家のくま  
かまをよきに

や<sup>ヤ</sup>ほ<sup>ホ</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>ぞ<sup>ゾ</sup>え<sup>エ</sup>う<sup>ウ</sup>ー<sup>ー</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>ほ<sup>ホ</sup>ま<sup>マ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup> 麥汀

懷<sup>クハ</sup>舊<sup>キウ</sup>

芭蕉塚 むせと

葉<sup>ハ</sup>を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>づ<sup>ヅ</sup>ほ<sup>ホ</sup>く<sup>ク</sup>ち<sup>チ</sup>や<sup>ヤ</sup>く<sup>ク</sup>に<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup> 角上

友人の あさあしを

葉<sup>ハ</sup>へ<sup>ヘ</sup>く<sup>ク</sup>ハ<sup>ハ</sup>た<sup>タ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>を<sup>ヲ</sup>啼<sup>ナ</sup>く<sup>ク</sup>中<sup>ナカ</sup>友<sup>トモ</sup>ら<sup>ラ</sup> 麥林

祝<sup>イハヒ</sup>詞<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>つ 秀橘  
於<sup>カ</sup>常<sup>ニ</sup>に<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>思<sup>ハ</sup>成<sup>ル</sup>の<sup>ハ</sup>海<sup>ノ</sup>宿<sup>ノ</sup>屋<sup>ノ</sup> 秀橘

二官神

袖<sup>スリーブ</sup>ハ<sup>ハ</sup>常<sup>ニ</sup>宿<sup>ノ</sup>屋<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>像<sup>ノ</sup>や<sup>ハ</sup>そ<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>先<sup>ノ</sup> 其梅

まももつとむはひをうくはるに  
叶時神にすうづ

不<sup>レ</sup>繫<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>殿<sup>ノ</sup>も<sup>ハ</sup>本<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>く<sup>ク</sup> 涼俣

古今和歌集卷之五



上世片歌

○古事紀  
 いざるもくみまよひもよざるのみこにはゆるか  
 吾と汝とて天の御柱を<sup>行廻逢</sup>ゆまよひてことのまほひ  
 せらるひか<sup>言</sup>ちぢるるこつひにや<sup>行廻逢</sup>はまおひづるなるの  
 みこ<sup>言</sup>ちぢるこあげたほり  
 あか<sup>愛少女</sup>にやーえをこめを  
 後にい<sup>愛少年</sup>とつぎうののみまよ  
 あか<sup>愛少年</sup>にやーえをこを

○橿原宮御宇天皇代

言依之野に<sup>武神</sup>のそへはせりのを<sup>オホモノスレ</sup>く<sup>オホモノスレ</sup>小<sup>オホモノスレ</sup>大物を<sup>オホモノスレ</sup>は<sup>オホモノスレ</sup>神の<sup>オホモノスレ</sup>序<sup>オホモノスレ</sup>

姫い<sup>オホモノスレ</sup>まをよ<sup>オホモノスレ</sup>く<sup>オホモノスレ</sup>娘もい<sup>オホモノスレ</sup>はせ<sup>オホモノスレ</sup>は<sup>オホモノスレ</sup>く<sup>オホモノスレ</sup>命あ<sup>オホモノスレ</sup>る<sup>オホモノスレ</sup>を<sup>オホモノスレ</sup>きて  
 志<sup>オホモノスレ</sup>く<sup>オホモノスレ</sup>お<sup>オホモノスレ</sup>り<sup>オホモノスレ</sup>ん<sup>オホモノスレ</sup>ま<sup>オホモノスレ</sup>へ<sup>オホモノスレ</sup>に<sup>オホモノスレ</sup>ア<sup>オホモノスレ</sup>せ<sup>オホモノスレ</sup>り<sup>オホモノスレ</sup>や<sup>オホモノスレ</sup>が<sup>オホモノスレ</sup>て<sup>オホモノスレ</sup>も<sup>オホモノスレ</sup>く<sup>オホモノスレ</sup>を<sup>オホモノスレ</sup>きて<sup>オホモノスレ</sup>失<sup>オホモノスレ</sup>して<sup>オホモノスレ</sup>  
 御<sup>オホモノスレ</sup>誓<sup>オホモノスレ</sup>放<sup>オホモノスレ</sup>す<sup>オホモノスレ</sup>み<sup>オホモノスレ</sup>す<sup>オホモノスレ</sup>て<sup>オホモノスレ</sup>若<sup>オホモノスレ</sup>姫<sup>オホモノスレ</sup>は<sup>オホモノスレ</sup>く<sup>オホモノスレ</sup>

天皇

かつ<sup>且</sup>く<sup>且</sup>も<sup>且</sup>い<sup>且</sup>や<sup>且</sup>さ<sup>且</sup>さ<sup>且</sup>た<sup>且</sup>て<sup>且</sup>依<sup>且</sup>え<sup>且</sup>を<sup>且</sup>し<sup>且</sup>よ<sup>且</sup>ら<sup>且</sup>む  
 則い<sup>オホモノスレ</sup>ま<sup>オホモノスレ</sup>を<sup>オホモノスレ</sup>る<sup>オホモノスレ</sup>も<sup>オホモノスレ</sup>娘<sup>オホモノスレ</sup>に<sup>オホモノスレ</sup>ま<sup>オホモノスレ</sup>久<sup>オホモノスレ</sup>米<sup>オホモノスレ</sup>の<sup>オホモノスレ</sup>命<sup>オホモノスレ</sup>詔<sup>オホモノスレ</sup>出<sup>オホモノスレ</sup>つ<sup>オホモノスレ</sup>ま<sup>オホモノスレ</sup>久<sup>オホモノスレ</sup>米<sup>オホモノスレ</sup>時<sup>オホモノスレ</sup>中<sup>オホモノスレ</sup>難<sup>オホモノスレ</sup>利<sup>オホモノスレ</sup>日<sup>オホモノスレ</sup>  
 を<sup>オホモノスレ</sup>え<sup>オホモノスレ</sup>て<sup>オホモノスレ</sup>あ<sup>オホモノスレ</sup>や<sup>オホモノスレ</sup>と<sup>オホモノスレ</sup>ね<sup>オホモノスレ</sup>が<sup>オホモノスレ</sup>て<sup>オホモノスレ</sup>

天地取坐登立利所懸利目  
 あめつはちとあまーことおとさけるため

大久米の命

を少めのにな直いふあつむと我がさけるやせん

○纏向日代宮御宇天皇代 景行

東のくればえををむけあづ免まうがへまふの時  
甲斐は海おのまにいて

倭建命

新治筑波過幾夜う寝つは

海欣をつ

か考をへてよは九夜日十  
ひあひのよひふいさう日

二二二キノオチ  
卯がとるこ

○日一たびに独が野ふふる

愛哉 吾家方從雲立サ 倭建命  
はしそやーとごの力たゆくもぬさちくも

○倭建命林さるさうてやいろの志強ちどりこるあめは

后と御子さちけみさうさるか中に  
まはばちどるはまはゆうむていそつこ

○難波高津宮御宇天皇代 德仁

まめくみくそものまは機織せをを見そかりてたが

古今戸部見是...

くかんはうく御製歌ふことしてさひ終ひりゆむ

高往 鶺鴒 別けの御衣 豫 女鳥王  
たうゆくやえやぶさこけのこをむひが祿

○日本書紀 桑田 玖賀媛 堂隣  
天女くつこのくがひのを失ぐとおほせど后の

祿さみすれふよまうえのさあすこと一あうりそのさう  
つれさうさうむひをさすいすれさうをさうあうぬくふ  
あうせ終らん

水底経 臣 少女 誰 将養 天白に  
みかそくふをこのをこのをたさやハハヒ

○古事紀 大皇とよのあうり... かの國はひた終に

いぞよは時その時にかまは子うの時をえそ... 大御さ  
よみしてさひ終ひりゆむ

汝皇子 終 治 雁 卵産  
ながみこやつひにあらむとかまハハハむら

○葛城忍海之高木角刺宮御宇天皇代 清 寧 啓  
あひのを... したちて嘉 祁の命はよまうんとる

たまふをみなのよをさう

大官 彼 果 隅 傾 志 昆 臣  
おみこやのをこつはたてをさかぬけり

古今書紀 明題集 卷之五

かく〜〜〜み〜〜〜て〜〜〜を〜〜〜の〜〜〜

大 愚 偶 傾 東 邪 命  
ねほたく〜をちか〜ことす〜か〜ゆけき

○石上廣高宮御宇天皇代

見武烈紀

大 子

賢 仁

いつぶ〜の〜〜〜の〜〜〜を〜〜〜おが〜して海松極等の  
款地はた〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜を〜〜〜を〜〜〜  
籓の長お〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜を〜〜〜を〜〜〜

臣 子 弥重 韓 垣 縱 皇子

志 毘 臣

○明日香川原宮御宇天皇代

日本書紀

風

皇 極 祥

〜〜〜の〜〜〜〜〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

〜らに

送

琴

所 聞

〜ら〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

○後岡本宮御宇天皇代

紀伊

温 泉

明 齊

皇 孫

〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜  
建〜を〜お〜も〜や〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜の〜〜〜

愛 朕 稚 子 置 将 行 天 自 王



さくばはれり女癖ハ親の申し候へはさか敷あけりも  
川さけるむけりね

あふどく

川舟の籌は志つゝにゆかきさるる事

ねぬく

お月海ほむれぬくおののちきり雨

○ちひさねのかゝるはなをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ

あふどく

あふどく

○ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ  
 ちひさねのこころをみてもいとよきはるこころ

古今和歌集卷之五 四三

けをくこれも先アける  
わらを

老とるあ目を先でこひくや

くはく

水<sup>スミ</sup>流<sup>ス</sup>たかりびくさあが小田<sup>コタ</sup>なる  
綾太理

雨<sup>アメ</sup>漢<sup>ツミ</sup>月<sup>ツキ</sup>よくまをこあもひくぬくか  
破了

東起

百本

西洋

渡江

友梅

雲郎

ゆき神はまきこほゆいもらま

まやま〜〜まもひいにかろまなくを

玉<sup>タマ</sup>喜<sup>ツギ</sup>のつひかひまも妹<sup>イモ</sup>が里<sup>サト</sup>まか

萩<sup>ハギ</sup>ま<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>厚<sup>アツ</sup>ま<sup>マ</sup>ひく〜  
管<sup>ツバ</sup>下<sup>ゲ</sup>はあせひか

日<sup>ヒ</sup>ぐ〜の<sup>ノ</sup>あまもまろく<sup>ク</sup>路<sup>ミチ</sup>ま<sup>マ</sup>山<sup>ヤマ</sup>法<sup>ホウ</sup>

二茅野ハ船フネ游ユも橋ハシの久キウゆユくク也

琳理

不フとトびビ取クまマそソククキキ有ユ居イむムたタちチをヲ也

禹貢

鴻ホウ居イくク板イタ火カのノ火カ教ケウにニ妹イモをヲ見ミそソめメてテ

兎洲

我ガせセこコにニくクもモらラ今イマをヲいイくク也也もモとト先ケンむム

己ミ子コもモりリ先ケンとト居イるル所トコロにニとトこコろロをヲもモらラむム也也  
かカるル所トコロにニ佛ブツのノ子コにニあアらラむム也也  
宝ホウ曆リキ十ジュウはハすスりリ之ノ故コにニあアらラむム也也  
時トキ正セイのノ日ヒにニあアらラむム也也  
たタひヒにニあアらラむム也也  
終シュウへヘとト終シュウにニあアらラむム也也

たタのノこコよヨあアらラむム也也  
おオもモひヒ好コトしシてテ先ケンとト居イるル所トコロにニあアらラむム也也  
そソとトはハ回クワりリのノかカらラもモつツいイてテあアらラむム也也  
くクもモらラむム也也

あやた

むムしシとト釋サカ迦カのノこコよヨとト母ハコ子コとトあアらラむム也也

神カミをヲ月ツキつツのノこコよヨにニあアらラむム也也  
戒ケイしシてテあアらラむム也也

青藍

神カミをヲ月ツキつツのノこコよヨにニあアらラむム也也

おオもモひヒ好コトしシてテ先ケンとト居イるル所トコロにニあアらラむム也也  
むムしシとト釋サカ迦カのノこコよヨとト母ハコ子コとトあアらラむム也也

去ばや



まろ海のあしすゝてあてはあうたまたち

おま〜

玉の法をまのく〜むま〜このたまはをに

寶曆十三癸未歲殊九月

及露菴藏板



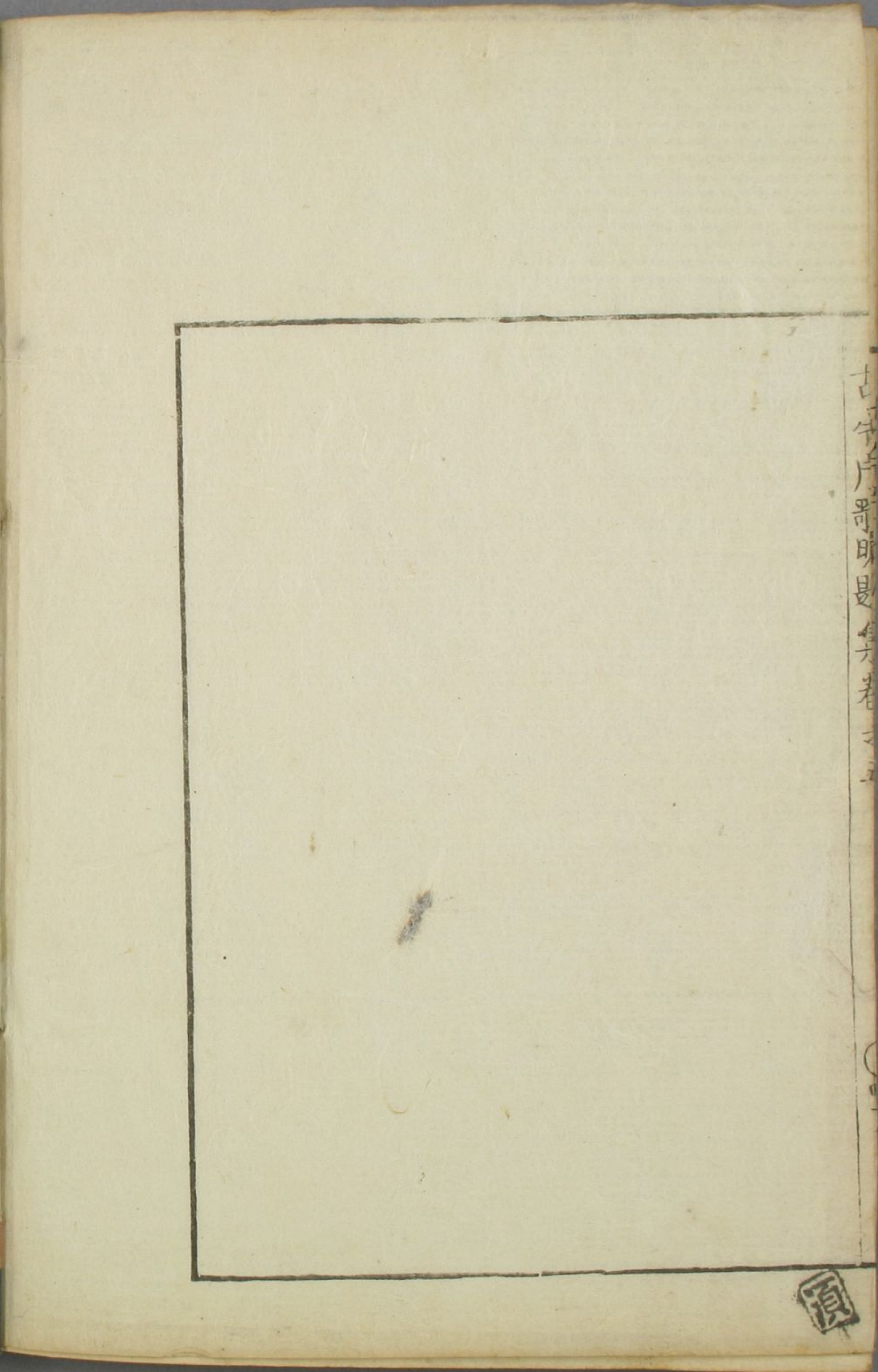
東都書肆

通室町三丁目

須原屋市兵衛

京寺町三條七丁

井筒屋庄兵衛



古今圖書集成卷之五

五

